

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	令和4年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=3372200760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;JigyosyoCd=3372200760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年12月20日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人近藤内科が母体の当事業所は、同一敷地内に、外来・入院と共にあります。各部署との連携により、利用者様にとってのよりよい医療・介護を一緒に考えます。当事業所では、365日、日々の生活のお世話は勿論、入所者様の心に寄り添う介護が出来るよう、研修やミーティングを通して、スタッフのレベルアップに努めています。また、同一敷地内の診療所から、ほぼ毎日、医師や看護師の往診もあり、安心です。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の一番優れている点は、職員の定着度である。長年勤めている人が多く、全体的に穏やかで落ち着いた雰囲気である。当然利用者も職員間も馴染みの関係であるため、自然体でほのぼのとして心地良い。周りは桃や柿の産地であり、ホーム名のとおり「宗堂桜」の名所でもある。母体は有床診療所を経営しており、古くから医療と介護の拠点として住民の信頼も厚い。地域は住民同士の支えあいの絆が強く、運営推進会議でも民生児童委員の参加が多数あり、駐在所や消防署等も参加してくれる。新型コロナウイルス感染症が収束し、地域で催される文化展や盆踊りへの参加や、日常的な外出活動が戻れば、利用者にも楽しみが増え活気をもたらずだろう。この機に利用者一人ひとりへ再度焦点を当てなおして、家族との連携も深めていこうと考えているとのこと、大いに期待したい。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。	理念は各フロア、事務所内に掲示されている。また、理念を細分化した15か条の職員規定をタイムカード横に掲示し、職員はその日の業務に就く前、声に出して読むことを義務化している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所と同じ敷地内にあるので、地域と密接につながっています。コロナ下でもあり地域に出かけることや交流が少なくなっています	コロナ禍以前は、地区内の公民館で催される文化展に利用者の作品を応募したり、盆踊り大会への参加が恒例行事となっており、地域と繋がりのある暮らしを送っていた。現在は感染対策にて自粛中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報交換をしています。グループホームがどういった所で認知症の方たちにどういった支援が必要かなどの話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。	現在、書面開催にて実施している。毎回、民生児童委員が複数名参加してくれる。会議で出た質問や意見に対し、丁寧に回答している。事業所の活動状況報告のみならず、地域との交流促進の場として機能している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、度々運営推進会議に参加していただき、最新の情報や、専門職の貴重なアドバイスをいただいています。	地域包括支援センターからは、運営推進会議の参加に加え、折に触れて情報をもらっている。相談にも乗ってもらい、連携を図っている。	市町村との密な連携により、地域の中での古くからの医療・介護の社会資源としての力を今後も発揮することを期待する。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	日中、玄関やフロア出入口は施錠していない。頻回に外に出たくなる利用者もいるが、ケア方法を工夫して関わっている。身体拘束委員会を3ヶ月毎に開催し、日々のケアを振り返り、身体拘束をしないケアの理解と実践に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りの居られない入所者様からの希望により、後見人の依頼をしました。成年後見制度についての認識を、より一層深めていきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに要望等を話せるような関係づくりに努めています。また、定期的に事業所便りも発行して、ご家族との架け橋としています。	月一度、請求書を送付し、様子を知らせている。事務所に支払いに来られた際にも事業所に立ち寄ってくれるので、利用者の日頃の様子を伝えている。家族が希望や意見を言いやすいよう、穏やかな雰囲気作りを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。	職員の勤務年数は皆長い。その為、穏やかに落ち着いた雰囲気を醸している。代表者も日に何回となく訪れては、利用者や職員と会話をしている。管理者も職員の意見や要望を代表者に伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に同業者の方々と交流していますが、互いの職場を行き来するまでには至っていないため、敬老会や運営推進会議に招き招かれる関係を一つでも作りたいたいと思ひます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りに努めています。また、コロナ後は日中たとえひとときでも帰宅したい思いが叶うように、ご家族にも無理のない範囲での働きかけをしていきたいと思っています	事業所として、馴染みの人や場の関係継続を大切に考えているが、コロナ禍で地域への外出や交流が叶わない。以前は、近所の方が野菜を差し入れてくれることもあった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフは常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。病院での面会禁止が多くなっています。面会回数は少なくなりました		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。	じっくり話ができる夜勤帯などの時間を使い、一人ひとりと話をするようにしている。それぞれの思いは申し送りなどで共有し、出来る形で実現するようにしている。外食希望があり、コロナが落ち着いた時に寿司を食べに行った。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。	本人の希望や家族の思いは、現場で話し合い、介護計画書を作成している。作った計画書は、家族に送付して署名をしてもらっている。	今後は、アセスメントを取り直して、内容を充実したいと考えている。一人ひとりの物語をさらに把握し、もっと寄り添っていきたいと考えている。今後の介護計画内容に期待を寄せる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域の盆踊りや文化祭に入所者様と参加させて載っていましたが、コロナ禍の今は全てが中止となり参加出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。歯科医師の訪問もあり、入れ歯の調整や口腔ケアなどが速やかに受けられています。	協力医療機関の医師がかかりつけ医である。ほぼ毎日往診してくれ、日頃の利用者の状況をよく把握してくれている。訪問歯科が利用できる他、必要な他科受診は家族に通院をお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある診療所から、医師・看護師の訪問や往診があり、日々心配なことを相談したり、診察を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。	入所時に、書面を用いて重度化した場合における対応について説明している。ホームでは経管栄養の対応は困難だが、療養病床をもつ協力医療機関への転院等も含め、本人家族の意向を踏まえつつ、支援している。過去に看取りを行った事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年前にAEDを設置して取り扱いを学びました。消防署主催の救命救急講習にも参加させていただき、急変や事故発生にも備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。	敷地内の病院と合同の避難訓練を実施している。火災想定避難訓練は、利用者の混乱を防ぐ為、職員のみで実施している。事業所周辺は洪水浸水想定区域にあたるが、建物は一段高い立地にある。災害に備えた飲食物や物品を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。	馴れ合いによる言葉遣いの乱れがないか留意している。職員規定等の掲示物を通じて、介護の基本や心得を日常的に振り返り、人格尊重への意識が高い。また、訪問調査中、職員が利用者に「ありがとう」と伝える言葉がたくさん聞こえた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は入所前からのなじみの美容室にカットに行かれる方も居りましたが、今は訪問理容師さんにカットしていただいています。毎日の洋服はご自分で選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして戴いています。	ご飯や汁物などはホーム内で作っている。おかず類は診療所内で作っている。給食委員会があり、利用者の食べたい物などの要望は反映している。配膳など利用者に来ることはしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。	排泄チェック表を用い、個々の排泄パターンに応じて本人のそぶりを観察しながら、声かけや介助を行っている。全ての居室内にトイレがある為、プライバシーに配慮しやすい環境となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。拒否のある入所者様には、無理強いをせず、時間をおいて再度声かけをしたり、脱衣所でしばらくお茶を飲んで落ち着いて戴くなどの工夫をしています。	入浴は週3回実施している。家庭浴槽だけでなく、入浴を楽しめる工夫として、併設施設の大浴場を利用する事もある。入浴拒否時には、無理強いをしない対応を心掛け、様々な工夫を実践しているが、現在、強く拒否する利用者が複数名いる為、対応に苦慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見ようとしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るように気を配っています。リビングでの塗り絵や編み物、自室で好きなテレビを見られるなど、個々にご自分の時間を楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は面会に来られたご家族と、買い物や食事に外出される方が居りましたが、今は出来なくなりました。以前のように、スタッフとも買い物や回転寿司に、また出かけたいものです。本年度一回のみ出かけた。	現在のコロナ渦では、敷地内の桜の並木道や散歩道を使って散歩をしている。建物を一歩出ると、懐かしい田園風景が広がっている。現状では、日常的に外出ができていない。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族からの預かり金はありませんが、移動販売車が来たときには、スタッフと共にさくら苑のおやつを買いに出ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきを一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るく暖かい雰囲気です。暖房の時期には加湿器も併用し、快適な温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。	窓から見える田園風景、中庭のハナミズキに加え、壁面のクリスマスの飾り付けが季節を感じさせる。共有空間に植物等も置きたいが、見慣れないものが目に付くと不穏になる利用者が居る為、現在はなるべく環境を変えない配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。	居室には以前に心を込めて作られたのであろう、色彩豊かな風車の飾りや、押絵の花などが飾られ、人となりを彷彿とさせる。また、愛用していた鏡台などが持ち込まれて、その人らしさが表れる室内となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に使用できる共用のトイレが有ります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372200760		
法人名	医療法人 近藤内科		
事業所名	グループホーム 宗堂さくら苑		
所在地	岡山県岡山市東区瀬戸町宗堂597		
自己評価作成日	令和4年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3372200760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaikokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=3372200760-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社One More Smile		
所在地	岡山県玉野市迫間2481-7		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人近藤内科が母体の当事業所は、同一敷地内に、外来・入院と共にあります。各部署との連携により、利用者様にとってのよりよい医療・介護を一緒に考えます。当事業所では、365日、日々の生活のお世話は勿論、入所者様の心に寄り添う介護が出来るよう、研修やミーティングを通して、スタッフのレベルアップに努めています。また、同一敷地内の診療所から、ほぼ毎日、医師や看護師の往診もあり、安心です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々目にする所に、理念を書いたものを掲示し、理念の共有に努めています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	診療所と同じ敷地内にあるので、地域と密接につながっています。コロナ下でもあり地域に出かけることや交流が少なくなっています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にご参加下さる地域の方々と、情報交換をしています。グループホームがどういう所で認知症の方たちにどういった支援が必要かなどの話し合いをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事報告や、サービスにおける新たな取り組みなどについて、参加者と話し合い、様々なアドバイスを戴いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岡山市包括支援センターからも、度々運営推進会議に参加していただき、最新の情報や、専門職の貴重なアドバイスをいただいています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングなどで、禁止の対象となる具体的な行為を理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングなどで、虐待防止について話し合い、未然に防げるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身寄りの居られない入所者様からの希望により、後見人の依頼をしました。成年後見制度についての認識を、より一層深めていきたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時には、ご家族に十分に説明し、改定時には、文書などでご理解・ご納得いただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情・相談窓口を重要事項説明書に明記しており、ご家族がスタッフに要望等を話せるような関係づくりに努めています。また、定期的に事業所便りも発行して、ご家族との架け橋としています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、スタッフの意見に耳を傾け、意見を活かすよう努めており、それは代表者にも届いています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、スタッフがやりがいを持って働けるよう、環境・整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、スタッフの技術・メンタル両面において、資質の向上の為、各種研修の機会を与えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会参加時に同業者の方々と交流していますが、互いの職場を行き来するまでには至っていないため、敬老会や運営推進会議に招き招かれる関係を一つでも作りたいたいと思えます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に十分に話を聞き、入所後もしばらくは、出来る限り寄り添うようにしています。ご本人やご家族が何を望んでおられるのかを、知ることから始めたいと思っています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所決定時には、ご家族は様々な不安や葛藤をお持ちだと思います。今後何でも話し合い、一緒に考えていきたい事を、伝えていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居当日からまず必要なサービスについて、ご家族やスタッフと話し合うようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側・される側にならないよう、個々の人格を尊重し、共に支え合いながら生活できるように努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の様々な事情を理解した上で、ご家族・スタッフ共に、ご本人を支える様にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族は勿論、ご近所の方や友人が、気兼ねなくいつでも会いに来られる雰囲気作りに努めています。また、コロナ後は日中たとえひとときでも帰宅したい思いが叶うように、ご家族にも無理のない範囲での働きかけをしていきたいと思っています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	無関心や、気の合わない人と、時には小さなトラブルが発生することもあります。スタッフは常に気を配り、良い関係が築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院治療のために退所後も、面会に行っています。退院後の相談も受けながら、不安にならないよう支援しています。病院での面会禁止が多くなっています。面会回数は少なくなりました		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、話をしながら、ご本人の思いや希望を知り、添えるように努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所までの暮らしについては、ご本人・ご家族・担当していたケアマネなどから、情報を収集し、把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	収集した情報を基に、スタッフ間のミーティング・申し送りにより、ご本人のその日の状態を把握できるようにしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の希望に基づき、スタッフ全員で話し合い、サービス担当者会議で検討して、ケアプランを作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録に、ご本人の日々の様子や変化などを、詳細に記録しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(小規模多機能型のみ記載)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	これまでは地域の盆踊りや文化祭に入所者様と参加させて載っていましたが、コロナ禍の今は全てが中止となり参加出来ていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけ医と、協力医療機関の医師との連携を図り、病気の種類により、適切な医療を受けられるようにしています。歯科医師の訪問もあり、入れ歯の調整や口腔ケアなどが速やかに受けられています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	同一敷地内にある診療所から、医師・看護師の訪問や往診があり、日々心配なことを相談したり、診察を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と協力医療機関とは、常に連携を図り、本人の病状・様子の把握に努めています。また、スタッフも面会に行き、ご家族とも情報の共有に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合における対応に係る指針についての説明をしています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	数年前にAEDを設置して取り扱いを学びました。消防署主催の救命救急講習にも参加させていただき、急変や事故発生にも備えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難訓練を、年に2回実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	タイムカード横に、人格尊重のための心得を掲示し、仕事に入る前に、全スタッフは、今一度介護の原点に立つ努力をしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が思いや希望を表せるよう、スタッフは寄り添いながら、自己決定を支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のその日の体調や希望に合わせて、リビングやお部屋で過ごす時間を、ご自分で決めていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	以前は入所前からのなじみの美容室にカットに行かれる方も居りましたが、今は訪問理容師さんにカットしていただいています。毎日の洋服はご自分で選ばれています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在、お料理は一緒にしていませんが、ご飯の炊けるにおいやお味噌汁の香りなど、食欲が湧く様配慮しています。テーブルふきやお茶入れなど、出来る範囲でお手伝いして載っています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給には、特に気を配っています。食事、個々の量・速度・好みを把握し、食事を楽しんで戴けるように支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、各自に合わせた口腔ケアを行っています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレ誘導して、おしめに頼らない生活を心がけています。毎日の排泄チェック票により、個々の排泄のリズムを把握しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック票により、常に主治医と相談し、水分量や漢方薬の処方などで、排便コントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の体調に合わせて、ゆっくり入浴を楽しんで戴けるよう支援しています。拒否のある入所者様には、無理強いをせず、時間をおいて再度声かけをしたり、脱衣所でしばらくお茶を飲んで落ち着いて戴くなどの工夫をしています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	リビングや個室で、思い思いに過ごして戴いています。お昼寝や休息など、個々のリズムの把握にも努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援には、細心の注意をしています。常に主治医と関わりを持ち、薬が変わったときには、特に気をつけて様子を見るようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気兼ねなくご自分の好きなことが出来るように気を配っています。リビングでの塗り絵や編み物、自室で好きなテレビを見られるなど、個々にご自分の時間を楽しまれています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は面会に来られたご家族と、買い物や食事に外出される方が居りましたが、今は出来なくなりました。以前のように、スタッフとも買い物や回転寿司に、また出かけたいものです。本年度一回のみ出かけた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人やご家族からの預かり金はありませんが、移動販売車が来たときには、スタッフと共にさくら苑のおやつを買いに出ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙も電話も、ご家族から受ける方が多いですが、携帯電話でご自分で電話したり、返事のはがきを一緒に書いて送るなどしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには穏やかな光が入り、明るく暖かい雰囲気です。暖房の時期には加湿器も併用し、快適な温度や湿度にも気を配っています。壁には、季節のクラフトや、個々の作品や写真を飾っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや和室、敷地周りの散歩など、自由に寛いで載っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に、ご家族が、ご本人の愛用品やお気に入りの物を整え、安心して過ごせるようにしています。一人一人個性のあるお部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは各個室に設置されていますが、車椅子で楽に使用できる共用のトイレが有ります。また、生活の場所には、手すりを取り付けています。		